

白山ふるさと文学賞

第十二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

「あこがれの父」

美川中学校三年

桶村^{おけむら}

帆希^{はるき}

私の父は建築士をしています。父は会社の社長です。私は父を尊敬しています。そして私は父が大好きです。

私の父は建築士です。家での父と仕事場の父ではまるで違います。家での父は、いろいろな場所に連れて行ってくれたり、いつも私たちのことを笑わせてくれるような明るい父です。たまに勉強を教えてください、社会について教えてください、優しい父です。そんな父ですが仕事になると頼りがいがある社長になります。仕事関係の飲み会では父の周りにはいつも多くの人が出て、信頼されているそうです。

一年生の時に職業インタビューをしてくるという宿題がありました。私は「建築士になってよかったこと」について聞きました。父は「自分の想像したことが現実になるのが楽しくてそれが建築士になってよかったこと」と言っていました。そのときの父はすごく生き生きとしていました。私は小さな時から父の会社に連れて行ってもらっていました。そのときによく自分の家の設計図を見せてくれました。何が書いてあるかよく分からなかったけど何十枚かの紙が大きな建物になるのものはものすごくすごいことだなと思いました。

私の父はすごいです。父のすごいところは、いろいろな人に頼られているところです。父の会社はすごく小さな会社です。しかし、日本各地の工場などを設計しています。そして建築士の集まりなどでも会話の中心となって話しています。それぐらい、お客さんの中でも同業者の中でも頼られています。

私は昔友達とけんかをしてしまいました。私は友達と二人だけで遊びたかったのに、友達は他の子も連れてきました。そのときすごく怒ってしまっ、勝手に帰ってしまいました。そして長い間口をきかない日が続いていました。私はすごくモヤモヤとして父に相談しました。父はすごく真剣な顔で視線を合わせて話を聞いてくれました。私の複雑な気持ちをよく分かってくれました。私が話し終わると父はアドバイスしてくれました。友達が何も言わずに他の子連れてきたの

も悪い、だけど勝手に帰ってしまった私も悪い、どちらも相手の気持ちや伝わっていきなかつたんじゃないかと父は優しい顔と声でゆつくりと話してくれました。確かに私は自分の思いを相手にしつかりと伝えていなかつたなど気づきました。私は父に「話し合ってみる」と伝えると、父は笑顔で「がんばれ」と応援してくれました。翌日友達に自分の思いを伝えてみました。そして謝りました。すると友達も自分の思いを伝えて、謝ってくれました。友達は連れてきた子とみんな仲良くしたかつたらしいです。父の言った通り、相手に自分の思いが伝わっていませんでした。仲直りができたのは父のおかげでした。父はいつも私が相談すると真剣にこたえてくれます。私は父のこういう所も尊敬しています。

私は小さい時に海が苦手でした。しかし家族で海の近くでキャンプをすることになりました。私は行きたくなかつたけど、行くことになりました。キャンプではまずテントをたてて、昼ごはんを食べてから海へ行くことになりました。初めはすごく怖かつたけど、父と一緒に入ることになりました。ずっと浮き輪をもって泳いでくれて、深い所に行かないようにしてくれました。だから海が怖くなくなり、楽しかつたです。今ではもう海が怖くなくなりました。

父はすごく優しい人です。いつでも子供思いに接してくれます。仕事では家では見せないしつかりとした一面があつてかつこいいです。父は私たちのために県外への出張をしたり、遅くまで仕事をしたりしてくれます。そして休日には私たちと遊んでくれたりしてくれます。私はそんな父にあこがれています。私も将来建築士になりたいと思っています。そしてあこがれている父を追いこせるようになりたいです。

私は父を尊敬しています。いつも私たちのために仕事をしてくれて、優しくしてくれる父が大好きです。そしていろいろな人から頼られ、生き生きとした顔で仕事をしている父のことを誇りに思っています。

す。私は父のもとに生まれてきて本当に本当によかったと思います。私は父に感謝しきれないほどの恩をもらいました。だからこれからは、父に少しでも恩返しができるように立派な大人になって親孝行をしたいです。

